

## 下延坂遺跡(本発掘調査B)

**所在地** 北設楽郡設楽町川向字下延坂・上延坂  
(北緯35度11分61秒 東経137度57分42秒)

**調査理由** 設楽ダム

**調査期間** 令和7年5月～7月

**調査面積** 706㎡

**担当者** 樋上 昇・河嶋優輝・水野領介



調査地点(1/2.5万「設楽」)

**調査の経過** 調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和7年5月から7月にかけて実施した。調査面積は706㎡である。調査区は4分割し、北から25A～25D区を設定して調査を行った。

**立地と環境** 遺跡は設楽町内を流れる境川の右岸河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地し、南西には石原遺跡が、境川を挟んだ対岸の北東にはマサノ沢遺跡が位置する。

**調査の概要** 25C・25D区では、後世の攪乱のため遺構・遺物を確認できなかった。25B区では土石流のため南半部が削平され、北半部にも明瞭な遺構は少なく、遺物の出土も乏しい。25A区では縄文時代中期後半の包含層と遺構面が確認された。

**縄文時代中期後半** 遺構面上に堆積した包含層に掘り込まれた土坑052SKでは、長辺5cm程度の黒曜石片が7点集中出土している。

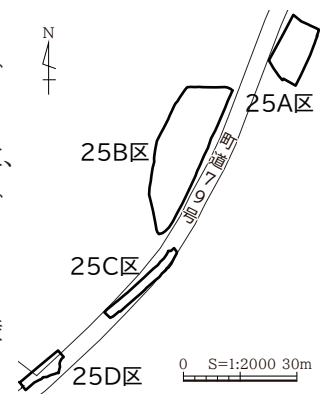
遺構面で検出された遺構には、竪穴建物跡、土坑、溝、炉穴、集石遺構がある。竪穴建物跡083SIでは底面に柱穴が確認でき、掘方の端に掘られた土坑からは石棒の破片が直立して出土した。118SX、119SKにも竪穴建物跡の可能性がある。

炉穴134SLは平面形が楕円で袋状の掘方を持つもので、壁面には明瞭な被熱痕が残る。

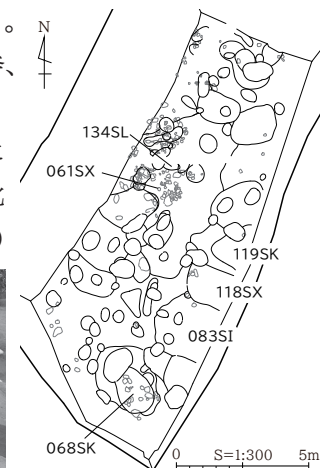
遺構面から包含層にかけて、数カ所で拳大～人頭大の礫が集中し、中でも集石遺構061SX周辺では遺物の出土量が多い。063SKなど、掘り込みの中に集石が見られる遺構も存在する。

出土遺物には、土器、剥片、石鏃、石核、打製石斧、磨製石斧、石棒のほか、楕円形の軽石に穿孔を施したものがある。

**まとめ** 既往調査と今年度調査の結果より、25A区の北～南東側に縄文時代中期後半の居住域が広がっており、町道を挟んだ北西側は遺構が希薄である様相を確認できた。(河嶋優輝)



下延坂遺跡  
令和7年度調査区配置図  
S=1/2000



25A区 縄文時代中期後半面  
遺構分布図 S=1/300



25A区 土坑068SK出土土器



25A区 竪穴建物跡083SI完掘状況(北西より)